

たんぽぽだより



2022年 2月号

まん延防止措置に関して、お休み、早めのお迎えなどご協力をしていただき感謝いたします。幸いたんぽぽでは、感染者もなく子ども達が毎日元気に登園してくれている事を有り難く思います。

先月からお知らせしているたんぽぽの理念についてお伝えします。

自分で考え自分で行動できる人 こども自身の思いを尊重する
その為には、小さい時から、自分で決めると言う事をしていく必要があります。また言われた事より自分が経験し成功したことが身につきます
そこで、たんぽぽでは、指示・命令(~しなさい)や否定(~できません)をしないように心がけています。小さなことでも出来るだけ自分で考え、やってみて「出来た！」を大事にしていきます。

自分で考え自分で行動するには、小さいうちからどんな小さなことでも自分で決めた事が実行できるという事を知ることが大事です。自己決定権ですね。大人はそれを“わがまま”と捉えられてしまう事があるのではないのでしょうか？

大人は先の事が分かっているから、つい指示や命令したくなりますが、指示や命令を受けて育つと「自分で考える」という事をしなくなります。依存してしまいます。また自分で考えなくなると「人のせい」にするようになります。「お母さんがこう言ったからそうしたんだからお母さんが悪いんだ」と

逆に否定されていると「何を言ってもだめって言われるんだ」と決める事を辞め、自己否定するようになってしまいます。

だからどんな小さなことでも子どもが「こうしたい」という事は出来るだけ否定しないこと。自分がしたい事が「出来た!!」という成功体験は子どもがのびる大事な感情です。

だけど聞けるときと聞けないときがありますよね。子どもの思うように出来ない事は、子どもが分かるように説明し、出来ない事をごめんねと言ってあげる事が大事です

もう一つ大事な事が0~3歳までは「十分に甘える」という事です。いわゆる“わがまま”が言える事っていい事なんです。0~3歳児までの子ども達にとってはわがままってあたり前なんです。

ただし「甘やかし」は良くないです。「甘える」と「甘やかし」は全く逆の事です。

「甘える」とは、子どもの思い(したい・したくない)を尊重する事

「甘やかし」とは、子どもの思い(したい・したくない)を尊重せずに、親や周りの都合で与えたり、取り上げたり、構ったりする事です。

甘やかさず十分に甘える事が出来る事で、自尊感情・自己肯定感が育まれ、自分で考え自分で行動できる人になっていくのです。

1月の苦情・ご提案は特にありませんでした。

今月の目標：丈夫な身体作り(よく食べ よく寝る よく遊ぶ)

つぼみ組【0歳児】：身の回りのことをやってみようとする気持ちが受けとめられ、安心して行おうとする。ごっこ遊びや雪遊びなどで、友だちと関わり身体を動かして楽しく過ごす。

もも組【1歳児】：保育者の見守りの中で、簡単な身のまわりのことを（手洗い、着脱、排泄など）自分でしようとする。氷や雪などの自然に触れ、冬の遊びを楽しむ。

ゆり組【2歳児】：室内と屋外との気温差、一人ひとりの体調に留意しながら戸外で元気に身体を動かす。着替えや朝と帰りの準備等の身の回りのことを自らやろうとする。

2月の保育内容

養護

つぼみ組：子供の行動範囲や発達過程を把握し、危険を予測して対応する。紙パンツが濡れた事を保育士が分かった時には「おしっこ出てよかったね」等と言葉をかけ「排尿→交換」を一つの流れとする。自分の思いを主張して駄々をこねたり、怒る姿を発達の過程として捉え、思いに共感し、安心して自分を出していけるようにする。また自ら選び決定できるように選択肢を提示する。

もも組：空気が乾燥しているので、活動前後は水分補給をし健康管理に留意する。鼻水や手の汚れの不快感に気づき、きれいにして過ごせるようにする。意欲的に身の回りの事をしたり遊んだりする姿を大切にしてもらい、共感してもらう。

ゆり組：感染症に留意し、指先や爪の間、手のひらを丁寧に手洗いをする。保育者に見守られながら安心して身の回りの事を進んでやろうとする。自分でやりたいという気持ちや進んでしようとする姿を認め、出来た時には一緒に喜び意欲に繋げられるようにする。

教育

つぼみ組：ハンドソープをつけてもらい洗うことができる。ごっこ遊びや園庭遊び等で友だちと関わり、一緒に遊ぶ。絵本の中の繰り返しの言葉や「せんせい、ワンワン、ニャンニャン」等の身近な単語を話せるようになる。戸外の自然に興味をもち雪を両手で掴んだり、投げたりして雪の感触を楽しむ。言葉のリズムや音の響きがおもしろい絵本を選び、出てくる言葉を真似し、絵本の世界と一緒に楽しむ。

もも組：スプーンを下手持ちにして食べる。保育者や友だちと一緒に食事を楽しむ。身の回りの事を自分で出来る事が増える。温かく安心できる雰囲気の中で友だちとの関わりを楽しむ。「いやだ」「自分でやる」など簡単な言葉で自分の気持ちを表現する。ごっこ遊びや見立て遊びを通して言葉のやり取りを楽しむ。戸外に出て冬の空気を感じながら、身体をたっぷり動かし雪や氷に触れ発見し驚きや不思議さを感じる。自分の作ったお面で豆まきをし、行事に親しみを持つ。雛人形製作を通して顔の部分の場所を意識で出来るようになる。保育者や友だちと一緒に歌を歌ったりリズム遊びを楽しむ。

ゆり組：食べ終わった食器を片付ける。着替えた後の衣服を畳んで袋に入れる。自分たちで簡単なルールや決まり事を決めて楽しく遊ぶ。保育者や友達とごっこ遊びを楽しみ、同じイメージを持って遊ぶ楽しさを味わう。散歩や外遊びを通して、風の冷たさを感じたり雪にふれて身近な自然の変化に興味を持つ。歌詞を覚えて歌を歌ったり、自分の好きな物や色を選んで作ることを楽しむ。

2月の歌

ゆき・雪のペンキ屋さん・春よ来い・うれしいひなまつり他